

令和 6 年度事業評価および令和 7 年度方針説明					資料 1	
京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
①活動機会を 充実させます	①質の高い文化 芸術を鑑賞・体 験する機会を創 出します	京丹後アートフェスティバルの開催 開催にあたり、「多様な表現とそれらを鑑賞する機会の創出」「鑑賞眼の育成」「地域の文化的資源の掘り起こしと、その再認識」「年齢や性別、国籍や言語、障害の有無を超えた交流」の課題へ取り組み、市民が多様な文化芸術に触れ、そこでの学びや体験を通して、創作や表現することの楽しみを体得できる機会を提供する。令和 6 年度は「みるプログラム」「知るプログラム」を実施。	生涯学習課	9/21（土）～12/22（日）の期間、市内全域を会場とした「みるプログラム」「知るプログラム」を実施。 会期中、市内で文化芸術事業を行う34団体、56事業と連携。（令和5年度は17団体、53事業と連携）	継続	9/6（土）～12/21（日）の期間、市内全域を会場とし、京丹後アートフェスティバル2025で以下のプログラムを開催予定。 （1）みるプログラム（鑑賞を重視したプログラム） ①市内のアートイベントを網羅したARTMAPの制作 ②まちなかを作品で彩るまちじゅうが美術館プロジェクトの実施 ③「Tango Creator`s File Vol.1 上前智祐/Chiyu Uemae」展をの開催（大宮ふれあい工房） （2）知るプログラム（「体験」を重視したプログラム） ①金井悠によるWS「みなみなさないをする」 ②宮北裕美によるWS「たんごのだんす、どうなっとるだぁ」 ③クリエイターの集うアートマルシェ（仮称）の実施（大宮ふれあい工房）
		「元気が出る！オーケストラコンサート」の開催 京丹後市市制20周年記念を冠して、宝くじ文化公演を10月5日(土)に開催。吉田正記念オーケストラによる歌謡曲などのムード音楽公演。 ※(一社)自治総合センターの採択を受け、実施した事業である。	生涯学習課	チケットが完売となり、盛況のうちに事業を終えることができた。来場者アンケートでは「毎月開催してほしい」など好意的な意見が多くあった。 第2駐車場が遠く、場所の案内が不足していたことが課題として挙げられる。	継続	R7年度についても(一社)自治総合センターにコンサート等の開催を申請し、採択済。 R8.1.18（日）に中丸三千繪＆秋川雅史コンサートを丹後文化会館で開催。
		落語ワークショップ、落語会の開催 丹後中学校、弥栄中学校、久美浜中学校の生徒を対象とした落語体験塾の開催（11/7、11/8開催）。アグリセンター大宮での京丹後落語三人会の開催。出演は桂塩鯛、桂米團治、桂米紫（11/8開催）。	生涯学習課 (共催)	落語体験塾について、アンケート結果は概ね好評であったものの、生徒が集中を欠く時間もあった。 京丹後落語三人会について、253席中216枚のチケット販売(昨年度比▲35名)。来場者は204名。アンケート結果は好評であった。	事業予定 なし	主催団体であった京丹後市文化のまちづくり実行委員会がR6年度末をもって解散となったため。 落語体験塾については、市内中学校の全校で実施することができた。また、京丹後落語三人会についても3年間継続し実施することができた。
		丹後能の開催 京丹後市市制20周年記念文化公演として9月29日(日)に丹後文化会館で実施（出演：観世喜正、野村萬斎）	生涯学習課 (共催)	714席中、来場者は562人(78.8%)。来場者アンケートでは「感激した」「説明が丁寧でわかりやすかった」などの好意見があった。※アンケート回収率：51%	事業予定 なし	「京丹後市市制20周年」を記念した事業であり、R7年度は事業予定無し。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
		・ こども能の開催 「丹後能」のプレイベント的位置として9月27日(金)に丹後文化会館で開催。地元の小中高生が仕舞発表と能を披露した。近隣の小学生も授業として鑑賞を行った。	生涯学習課 (共催)	参加者450人。観世喜正氏の能楽解説や能「土蜘蛛」が披露され、子どもたちにとって、本物の文化芸術に触れる機会となった。	事業予定 なし	「京丹後市市制20周年」を記念した事業であり、R7年度は事業予定無し。
		・ 田中彩子リサイタルの開催 京丹後市市制20周年記念文化公演、また、田中彩子デビュー10周年記念として12/ 8 (日)に丹後文化会館で実施。	生涯学習課 (共催)	来場者は420人。来場者アンケートでは「人柄あふれるトークが魅力的であった」「迫力のある歌声であった」などの好意見があった。	事業予定 なし	「京丹後市市制20周年」を記念した事業であり、R7年度は事業予定無し。
					・ Music Fusion in Kyoto音楽祭 新規	京都府（文化政策室）と共催で、府内一円を音楽で満たし、府内全域で音楽に対する関心を高めることを目的とした音楽祭。 10/25（土）に京丹後市内で室内楽のコンサートを実施予定。
	②だれもが気軽に演奏や発表ができる場を創出します。	・ おとまち響プロジェクト ①まちかどピアノ事業(丹後文化会館、丹後王国) ②ピアノ貸出事業(閉校となった学校のピアノ貸出) ③音楽活動ができる環境を整備(丹後王国 王国シアター、丹後文化会館野外ステージ、峰山総合公園) ※丹後王国、峰山総合公園は練習のみ使用可能	生涯学習課	①まちかどピアノ事業のうち、丹後王国設置のピアノは来場者が利用している。利用者数は集計しておらず不明。 丹後文化会館のまちかどピアノ事業については運用方法を整備中。②③の事は運営方法等を検討中であり、R6年度内に事業実施ができていない。	継続	運営方法や音楽やダンス練習等ができる場所を決める等、環境を整備のうえ事業を展開する予定。
		・ 京丹後市総合文化祭「舞台芸能祭」 5/19(日)丹後文化会館にて開催	生涯学習課 (共催)	文化協会加盟29団体、出演・スタッフ300人により実施。来場者数延べ700人。	継続	5/18(日)丹後文化会館で開催（15回記念として実施）。文化協会加盟35団体、出演・スタッフ500人により実施。来場者数延べ700人。
		・ 京丹後市総合文化祭「総合作品展」 6/8(土) 9 (日)網野体育センターにて開催	生涯学習課 (共催)	文化協会加盟19団体が参加。来場者数延べ700人。	継続	6/7(土)、8(日)に弥栄社会体育館で開催予定。
	①文化芸術に関する専門人材を配置します	・ 専門人材の配置（継続） 文化芸術のマネジメント経験を有する職員を生涯学習課へ配置（R5から継続）	生涯学習課	ふるさと創生職員を生涯学習課に1名配置。京丹後アートフェスティバルの企画・運営や文化芸術のまちづくり推進会議の運営などを担う。	継続	京丹後アートフェスティバルの企画・運営、文化芸術のまちづくり推進会議、文化協会、丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会等、文化活動を行う各団体や個人への助言、京都府の文化芸術事業との連携やコーディネートを担う。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
②人材を育みます	②専門的な指導者を活用します	・京丹後アートフェスティバルの開催 開催にあたり、「多様な表現とそれらを鑑賞する機会の創出」「鑑賞眼の育成」「地域の文化的資源の掘り起こしと、その再認識」「年齢や性別、国籍や言語、障害の有無を超えた交流」の課題へ取り組み、市民が多様な文化芸術に触れ、そこでの学びや体験を通して、創作や表現することの楽しみを体得できる機会を提供する。令和6年度は「みるプログラム」「知るプログラム」を実施。	生涯学習課	・9/22（日）まちなかアートマルシェ@御旅市場では、ハミルトン純子（料理家）、多賀野涼子（調律師）、金井、宮北による単発WSを実施。来場者146人 ・10～12月に金井悠（陶芸家）「みなみなさないをする」WSを4回実施。参加者5名 ・10、11月に宮北裕美（ダンサー）「たんごのだんす、どうなとるだぁ」WSを4回実施。参加者7名	継続	「知るプログラム」では、丹後を拠点に国内外で活躍するアーティストによるワークショップを実施。 1年目の「多様な表現を知る」、2年目の「丹後を素材につくる」を経て、3年目の今年度は「丹後を舞台にみせる（発表）」をテーマにした連続ワークショップを行う。 金井悠「みなみなさないをする」では、2年かけて模索してきた丹後の郷土資料を用い、カメラマン、デザイナーとともに展覧会と図録制作を行う。 宮北裕美「たんごのだんす、どうなとるだぁ」では、古墳をモチーフに市内のダンスサークル、音楽家、照明家とともに舞台作品を創作、発表を行う。
		・アーティスト派遣(アウトリーチ)事業の実施 アーティストを市内の小学校・中学校・高等学校・支援学校等へ派遣する事業の開催	生涯学習課	市の事業(市がアーティストを派遣)としては未実施。 緑風高校・久美浜学舎からアーティストの紹介依頼を受け、南丹市在住の井上信太氏を幹旋。探求授業の一環で校舎の内外を使ってWSを実施。	事業予定なし	市の事業としては実施予定無し。ただし、各校から派遣（紹介）の依頼があれば、対応予定。
	③次世代を担う子どもたちをはぐくみます	・「丹後学」モデルカリキュラム改訂作業 グローバル人材育成につながる地域探究学習「丹後学」の実現に向け、令和5・6年度の2ヵ年でモデルカリキュラムの全面改訂を行い、令和7年度版丹後学カリキュラムを作成した。	学校教育課	改訂作業は「新しい教育のカタチ」を共通理解し、それを読み取ってもらえるモデルをつくる作業である。作成部会メンバーによる主体的な活動により進めることができた。	事業予定なし	カリキュラム改訂作業はR6年度末で完了。部会委員による普及等についてはR7.8月末まで実施予定。 本市の目指すグローバル人材を育成するため、各学校園所での研究・実践も進めていきたい。
		・地域学習副読本の活用 令和5年度に全面改訂した地域学習副読本を小学5年生から中学3年生までで活用する。副読本はデータ版も作成し、タブレット端末で使用可能とした。	文化財 保存活用課	小中学校における地域学習、総合的な学習の時間での使用などが認められる。	継続	京丹後市地域学習副読本は京丹後市ホームページでも公開中。令和7年度以降も引き続き地域学習副読本の活用を行う。
		・アーティスト派遣(アウトリーチ)事業の実施 アーティストを市内の小学校・中学校・高等学校・支援学校等へ派遣する事業の開催	生涯学習課	市の事業(市がアーティストを派遣)としては未実施。 緑風高校・久美浜学舎からアーティストの紹介依頼を受け、南丹市在住の井上信太氏を幹旋。探求授業の一環で校舎の内外を使ってWSを実施。	事業予定なし	市の事業としては実施予定無し。ただし、各校から派遣（紹介）の依頼があれば、対応予定。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
		・ Music Fusion in Kyoto音楽祭 Music Fusion in Kyoto音楽祭の教育プログラムの一貫で、府内小中学校で鑑賞型、体験型の公演および指導を実施。	学校教育課	10/17（木）峰山小学校でクアルテット・インダコによる弦楽四重奏を実施。	継続	10～11月にかけて、府内のこども達を対象に鑑賞型、体験型の公演・指導を実施し、音楽体験機会を創出予定。府内10会場程度を現在、学校教育課を通じて公募中。
	①公共施設などを使いやすくします	・ 社会教育施設の維持管理 峰山いさなご施設・マスターズビレッジ施設の維持管理	生涯学習課	【峰山いさなご施設】 峰山林業総合センター・いさなご工房の駐車場の外灯が全て点灯できていない状態になっており、現時点で修繕ができておらず夜間利用に支障をきたしている。 【マスターズビレッジ施設】 大宮ふれあい工房の展示・大研修室について、R7.3に雨漏り修繕を行った。	継続	【峰山いさなご施設】 駐車場の外灯について、修繕の予算要求するも、予算措置に至らず、修繕の見込みがたっていない。開館日変更も検討しながら、施設全体を適切に維持管理し、いさなご工房等の利用促進を図りたい。 【マスターズビレッジ施設】 大宮ふれあい工房の展示・大研修室について、エアコンが故障している。R7年度予算要求するも、予算措置に至らず修繕の見込がたっていない。 開館日変更も視野に入れながら適切な維持管理に努める方針である。
		・ 資料館の維持管理 郷土資料館・古代の里資料館・琴引き浜鳴き砂文化館の維持管理	文化財 保存活用課	郷土資料館及び古代の里資料館の適切な維持管理、保守管理を行った。鳴き砂文化館は指定管理者が別途維持管理等を行う。	継続	資料館の開館日、時間の変更も視野に入れながら適切な維持管理に努める。
	②創作などができる場を増やします	・ おとまち響プロジェクト ①まちかどピアノ事業(丹後文化会館、丹後王国) ②まちかどピアノ貸出事業(閉校となった学校のピアノ貸出) ③音楽活動ができる環境を整備(丹後王国 王国シアター、丹後文化会館野外ステージ、峰山総合公園) ※丹後王国、峰山総合公園は練習のみ使用可能	生涯学習課	①まちかどピアノの利用者数については、計測していないため不明。 ②まちかどピアノ貸出事業…9/22(日)まちなかアートマルシェ 参加者15名 丹後文化会館のまちかどピアノ事業、まちかどピアノ貸出事業共に、運営方法等の整備ができておらず、事業実施ができていない。	継続	運営方法等を整備し、試行的な実施も行いながら、まちかどピアノ事業、まちかどピアノ貸し出し事業を市民の方に広く利用してもらえるよう、広報予定。
		・ 旧大宮第三小学校の丹後吹奏楽団への貸し出し 吹奏楽の練習場所として、R6.4～R7.3まで使用許可(1年更新)	教育総務課	吹奏楽の練習場所として、R7.3～R8.3まで使用許可(1年更新)	継続	使用許可の申請があれば、継続許可する方針である。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
③公共施設などを使いやすく整備します。	③施設間のネットワークを構築します	・文化芸術のまちづくり推進会議間でのネットワークの構築 「文化芸術事業における情報発信について」のグループワークの実施	生涯学習課	5/14（火）、7/30（火）、10/8（火）、1/21（火）の4回開催。通常の会議スタイルとは異なり、各回の協議議題に基づき、性別・年齢等が入り交じり、新たな意見交換が行えるよう実施したことはとても有意義であり、委員からも好評であった。 7月には2回、全国公立文化施設協会の支援制度を活用し、広報の専門家を迎え、情報発信における勉強会を行った。	継続	「文化芸術事業における情報発信」に関する提案の実施および検証、環境整備についての提案を行う予定。 令和7年度は3回程度の実施予定であり、第1回目は6月下旬を予定。
		・京丹後アートフェスティバル「みるプログラム」による市内の文化芸術団体、民間施設等との連携 「鑑賞」に特化したみるプログラムでは、これまで個々に動いていた文化芸術の活動を「ARTMAP」や専用のSNSを活用し一体的に広報することで、市民に様々なジャンルの芸術鑑賞をする機会があるということを提示し、またそれらのアートイベントをバスツアーとして周遊することで、このまちの文化的資源に出会う機会をつくること、そして官民が連携することで、フェスティバルをともに盛り上げていくネットワークづくりを行う。	生涯学習課	「みるプログラム」では会期中、市内で文化芸術事業を行う34団体、56事業と連携。広報連携を望んでの新たな後援申請や、来年度以降も連携を望む声を聞いている。	継続	京丹後アートフェスティバルのARTMAP（みるプログラム）をとおして、市内外の施設や民間団体等との連携を積極的に行う予定。 広報連携の募集については、4/23～6/1まで市の広報誌、LINE、SNS等で発信、公募を行った。
		・京丹後アートフェスティバル「知るプログラム」まちなかアートマルシェ開催による市内の文化芸術団体、民間施設等との連携 誰もが気軽に創作や表現の楽しさを体験できる機会として、様々なジャンルのワークショップを一堂に集め、1日限りのイベント（マルシェ）として開催する。 こまねこまつりや、御旅市場の空き店舗などを活用し、地域との連携したかたちで実施する。	生涯学習課	「知るプログラム」では9/22（日）まちなかアートマルシェ@御旅市場では、「御旅市場商店街組合」、「御旅市場アーケード管理組合」、「こまねこまつり実行委員会」と連携するとともに、企画や運営に「ふるさと創生職員プロジェクト」の協力をいただいた。 R7.4.26～5.25にかけて、大宮ふれあい工房エントランスにて「知るプログラム」の成果展示を実施。	継続	京丹後アートフェスティバルのプログラムをとおして、京都府や市内外の施設、民間団体等との連携を積極的に行う予定。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
	④文化ホールのあり方や図書館の整備を検討します	・文化芸術関連施設及び、中央図書館の整備推進 京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画にもとづき、市立図書館としてのあり方を検討していく。市民全体へのアンケートや図書館協議会での意見をもとに方針を決定する予定。	生涯学習課	夏頃に全市民を対象としたアンケートを実施予定であったが、予定がズレ込んでおり未実施。	継続	令和7年3月に都市拠点施設の計画地が変更となった。5月10日に全市民を対象にしたアンケートを全戸配布しており、現在集計中(回答期限5月30日)。アンケートや図書館協議会での意見をもとに市全体の図書案運営の方法について方針を決定する予定。
④次世代へ文化的資源を継承します	①京丹後の歴史文化を次世代に伝えます	・小学校・中学校での「丹後学」の学習 令和4年度に改訂した「丹後学 令和5・6年度活用版」をもとに、各校園所で地域素材を用いた探究的な学びの研究実践を推進	学校教育課	市の「重点」の方向性に沿い、令和6年度の重点に設定された学校が増加しているが、新たな「丹後学」が目指すものの理解・具体化は今後さらに進めて行く必要がある。	継続	R7年度においても引き続き、各学校における丹後学の実践を推進する。
		・出前講座 外部からの要望に応じ、出前講座等の対応を行うもの	教育委員会事務局各課	文化財保存活用課が、小学校や団体などからの依頼を受け9回実施。文化財の保存活用に関する基本計画、市や地域の歴史について説明。	継続	R7年度においても引き続き、各学校各団体における出前講座を実施する。 生涯学習課についても「京丹後市の文化芸術振興政策について」講座依頼を受付済。
		・郷土資料館 見学学習 郷土資料館所蔵の民具を中心に見学学習を行うもの	文化財保存活用課	例年2月頃に小学校で実施される「昔の生活」の授業において見学学習を実施予定。	継続	R7年度においても引き続き実施する。
		・丹後古代の里資料館 体験学習 丹後古代の里資料館所蔵の発掘された遺物を中心に体験学習を行うもの	文化財保存活用課	市内小学校の社会科授業において、発掘された遺物の体験学習を実施（1回）。	継続	R7年度においても引き続き実施する。
		・京丹後アートフェスティバル「知るプログラム」でのアーティストによる連続ワークショップ 1年目のテーマ「多様な表現を知る」を経て、2年目は「丹後を素材につくる」をテーマに、ワークショップをまちなかで展開し、アーティストが扱うモチーフや素材から「日常や社会とのつながりを知る」きっかけを生み出す。ワークショップをとおして、日常や社会とのつながりから、その先（未来）を創造する力を養う。創作（作品づくり）を中心に、3年目の発表へとつなげる。	生涯学習課	・丹後の空き家とそこから出る廃材や骨董品をモチーフに、金井悠（陶芸家）による「みなみなさないをする」を10～12月に4回実施中。参加者5名 ・古墳や郷土の踊りをモチーフに、宮北裕美（ダンサー）「たんごのだんす、どうなとるだぁ」WSを10、11月に4回実施。参加者7名。 数や量では測れない、質の部分をどのように評価していくのか、また今後継承していくのか課題はある。	継続	「知るプログラム」では、丹後を拠点に国内外で活躍するアーティストによるワークショップを実施。 1年目の「多様な表現を知る」、2年目の「丹後を素材につくる」を経て、3年目の今年度は「丹後を舞台にみせる（発表）」をテーマにした連続ワークショップを行う。 金井悠「みなみなさないをする」では、2年かけて模索してきた丹後の郷土資料を用い、カメラマン、デザイナーとともに展覧会と図録制作を行う。 宮北裕美「たんごのだんす、どうなとるだぁ」では、古墳をモチーフに市内のダンスサークル、音楽家、照明家とともに舞台作品を創作、発表を行う。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
	②地域の伝統行事や民俗芸能などを次世代に伝えます	・京丹後市指定文化財等補助金の活用 市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、所有者に対し修理や保全に係る補助金を交付する。	文化財 保存活用 課	指定文化財等における申請を現在審査中であるが、伝統芸能に関するものも申請されている。	継続	R7年度においても引き続き実施する。
		・歴史文化や文化財を後世に伝える市民遺産ならびに市民遺産会議の運用 京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民提案型の市民遺産を募集し、会議で決定する。	文化財 保存活用課	10月に2団体から推薦のあった市民遺産を2件認定。3月にあらたに3件を認定。 (久美浜一区秋祭り、資料 吉澤村文書、丹後最古 俵野廃寺、河辺村の歴史遺産、湯船坂古代の丘公園)	継続	R7年度においても引き続き実施する。
⑤情報を発信します	①イベント、行事、団体などの情報を市内外へ発信します。	・京丹後アートフェスティバル期間内の取組みや催しの情報発信 フェスティバル期間中に市内で行われる文化芸術事業と連携し、様々な鑑賞の機会を包括、一体的に提示する。また令和5年度同様、広報物を手に取ったひとの能動性を引き出すツールとなるARTMAPを制作する。昨年度は連携事業を、市主催事業、後援事業、関係団体による事業、市内の文化施設のみを対象としたが、今年度は一般に公募し連携先を拡充させる。(令和5年度は17団体、53事業と連携)	生涯学習課	・ARTMAPの作成および市内外への配布(21,500部)、市HP「みるプログラム」イベントカレンダーの掲載、専用インスタグラムでの発信、まちなかアートマルシェ特設会場での情報発信、そのほか民間のイベントサイトへの掲載等。 ・連携事象は34団体、56事業。広報連携を望んでの新たな後援申請や、来年度以降も連携を望む声を聞いている。	継続	京丹後アートフェスティバル2025の開催をととして、京丹後市の文化芸術に関する取組や文化的資源の豊かさ、市内のアートイベントを内外へ一体的に発信する。今年度はARTMAPの一部を日英表記にすることで、大阪・関西万博等で関西圏に訪れる人へのアプローチを試みることに、ARTMAPがポスターとしても活用できるなど、新たに視覚的な発信作用を持ったデザイン企画を検討している。
		・京都府の文化芸術の情報発信ツール等を活用した情報発信	生涯学習課	現時点で京都府の情報発信ツールとの連携実績なし。	継続	KYOTOHOOP(京都府地域文化創造促進事業の情報サイト)などでの情報発信依頼を行う。
		・文化芸術のまちづくり推進会議で情報発信の改善策に取り組む ・令和6年度文化庁委託事業「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 支援員の派遣による支援」の活用 ・「文化芸術事業における情報発信について」の企画提案	生涯学習課	・7/19(金)、26(金)広報に関する勉強会(支援員:愛知県芸術劇場 広報・マーケティング部長 林健次郎)実施。データや状況に基づいた効果的なツール等を知ることができ、委員からは貴重な機会だったとかね好評だった。	継続	「文化芸術事業における情報発信」に関する提案の実施および検証を行う予定。 令和7年度は5回程度の実施予定であり、第1回目は6月下旬を予定。

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
	②助成制度などの情報を収集し広く周知します	・ 国、府、各種団体の助成制度をまとめ、情報提供	生涯学習課	京丹後市ホームページ内に、文化芸術活動を対象として支援・補助金のページを公開済。 京丹後市内での活動を対象としたものから、全国での活動を対象としたものまで幅広く掲載中。	継続	市ホームページに以下区分にわけ、国・府・市・民間の助成金情報を掲載中。周知については、市の広報誌およびLINE、SNS等で配信済。 (1) 京丹後市内での活動 (2) 京都府内での活動 (3) 全国での活動 (4) 海外派遣等が対象 (5) 子どもを対象にした活動 (6) 障害者を対象にした活動 (7) 伝統芸能や地域のお祭り等を対象にした活動
	①文化的資源の魅力を市内外へ発信します	・ 京丹後アートフェスティバル期間内の取組みや催しの情報発信 フェスティバル期間中に市内で行われる文化芸術事業と連携し、様々な鑑賞の機会を包括、一体的に提示する。また昨年度同様、広報物を手に取ったひとの能動性を引き出すツールとなる、ARTMAPを制作する。昨年度は連携事業を、市主催事業、後援事業、関係団体による事業、市内の文化施設のみを対象としたが、6年度は一般公募を行い、連携先を拡充させた。(令和5年度は17団体、53事業と連携)	生涯学習課	・ ARTMAPの作成および市内外への配布(21,500部)、市HP「みるプログラム」イベントカレンダーの掲載、専用Instagramでの発信、まちなかアートマルシェ特設会場での情報発信、そのほか民間のイベントサイトへの掲載等。 ・ 連携事象は34団体、56事業	継続	京丹後アートフェスティバル2025の開催をととして、京丹後市の文化芸術に関する取組や文化的資源の豊かさ、市内のアートイベントを内外へ一体的に発信する。今年度はARTMAPの一部を日英表記にすることで、大阪・関西万博等で関西圏に訪れる人へのアプローチを試みることに、ARTMAPがポスターとしても活用できるなど、新たに視覚的な発信作用を持ったデザイン企画を検討している。
		・ ～日本のふるさと～京丹後歴史文化めぐりマップの活用 京丹後市文化財保存活用地域計画に示した4つの歴史文化の特徴と11のストーリーを紹介するデジタルマップを運用するもの	文化財保存活用課	平均月間PVが約2400PVと目標の2000PVを超えるなど閲覧回数も増加している傾向である。	継続	R7年度も引き続き運用するが、マップにおいてはスタンプラリーの実施、お知らせやコラムの充実を図りたい。
		・ 京丹後アートフェスティバル「みるプログラム」でのガイドによる鑑賞バスツアー 連携するアートイベントや市内の文化財などをガイド付きで巡るバスツアー。ガイドの解説や、同乗する参加者との対話や交流をととして、いろんな見方、感じ方がある、そんな多様性を受け入れる場づくりと、鑑賞眼の育成となる場をつくる。	生涯学習課	11/30(土)「みるプログラム」連携イベントとして、丹後地域を周遊する丹海路線バス「パシャパシャ丹後展覧会バス車両」を運航(マイン前バス停～経ヶ岬)。参加人数6人。	事業予定なし	—

京丹後市文化芸術振興計画		令和6年度の取組 (概要)	所管課	R6事業実績および評価 (R7.5末 時点)	R7方針	R7方針説明
基本方針	基本施策					
⑥文化芸術 をまちづく りに広く活 かします	②地域・世 代・国籍など を超えた交流 を図ります	・京丹後アートフェスティバル「知るプログラム」での アーティストによるワークショップ等 「体験」を重視したプログラム。アーティストの視点や表 現方法を用いて、地域の文化的資源を掘り起こす。アー ティストの作品紹介のほか、ワークショップを通して多様 な表現、創作方法を知り、そのプロセスや参加同士の交流 の中で、歴史や郷土、地域課題等への気づきを促す。 9/22（日）まちなかアートマルシェ@御旅市場 10月～12月 金井悠（陶芸家）「みなみなさないをす る」WS 10月、11月 宮北裕美（ダンサー）「たんごのだんす、 どうなとるだぁ」WS	生涯学習課	・9/22（日）まちなかアートマルシェ@ 御旅市場では、ハミルトン純子（料理 家）、多賀野涼子（調律師）、金井、宮 北による単発WSを実施 ・10～12月に金井悠（陶芸家）「みなみ なさないをする」WSを4回実施。 ・10、11月に宮北裕美（ダンサー）「た んごのだんす、どうなとるだぁ」WSを4 回実施。 アートマルシェでは、知るプログラム講 師に加え、料理家、調律師を講師に迎 え、ジャンルの幅を広げて開催。知るプ ログラムとは異なる層（特に親子）の参 加が多かった。来場者は146人。	継続	「知るプログラム」では、丹後を拠点に国内外で活躍す るアーティストによるワークショップを実施。 1年目の「多様な表現を知る」、2年目の「丹後を素材 につくる」を経て、3年目の今年度は「丹後を舞台にみ せる（発表）」をテーマにした連続ワークショップを行 う。 金井悠「みなみなさないをする」では、2年かけて模索 してきた丹後の郷土資料を用い、カメラマン、デザイ ナーとともに展覧会と図録制作を行う。 宮北裕美「たんごのだんす、どうなとるだぁ」では、 古墳をモチーフに市内のダンスサークル、音楽家、照明 家とともに舞台作品を創作、発表を行う。
		・丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会への補助 令和5年度より、福祉とアートを横断する観点から丹後地 域の文化を育み、分野や属性を超えた人と人のつながりを つくることを目的とした、丹後で福祉とアートをつなぐ実 行委員会へ作品制作にかかる費用の補助を行っている。	生涯学習課	丹後エリアの7会場で展覧会を行う。メイ ン会場となったウッディいさなごを市か ら会場提供した。来場者は合計約700名 （ウッディいさなご約200名、その他会場 合計約500名） ・10/25-11/22 豆腐カフェもりのさん ぽみち、弥栄ゆう薬局、roots [京丹後市 未来チャレンジ交流センター] ・10/26-11/23 かや山の家 ・10/25-11/25 Ma・Roots [マ・ルー ト] ・11/18-11/23 浜町ギャラリー ・11/30-12/4 ウッディいさなご [京丹 後市峰山林業総合センター]	継続	継続して補助金を交付予定。 今年度より、市の障害者福祉課とも連携を行う。
	③文化芸術の 力を観光に活 かします。	・～日本のふるさと～京丹後歴史文化めぐりマップの運用 京丹後市文化財保存活用地域計画に示した4つの歴史文化 の特徴と11のストーリーを紹介するデジタルマップを運 用するもの	文化財 保存活用課	平均月間PVが約2400PVと目標の2000PV を超えるなど閲覧回数も増加している傾 向である。	継続	R7年度も引き続き運用するが、マップにおいてはスタン プラリーの実施、お知らせやコラムの充実を図りたい。